資料２－１

Ｃ型肝炎の概要

１．Ｃ型肝炎とは

・ 肝炎の原因： わが国ではそのほとんどが肝炎ウイルスの感染によるものである。

・ ウイルス肝炎のうち、C型肝炎ウイルス（HCV）の感染によるものをC型肝炎と呼ぶ。

２．症状

〈急性肝炎〉

・ 自覚症状： 2～3割程度に出現。

全身倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐(おうと)などが出現し、さらに黄疸(おうだん)が出現

・ 他覚症状： 肝臓の腫大

〈慢性肝炎〉

・ 自覚症状のない場合が非常に多い

３．自然経過

・ HCVに初めて感染した場合、70％前後の人が持続感染

→HCV持続感染者（HCVキャリア）

・ 経過：

  ・ 感染から慢性肝炎へ： 65～70％（40歳以上の場合）

  ・ HCVキャリアの経過： 適切な治療を受けずに 70 歳まで過ごした 100 人

10～16人が肝硬変

20～25人が肝がん

に進行すると予測

※ 献血を契機に見出されたHCVキャリアと抗ウイルス療法などの積極的治療を受けていなかった通院中のC型慢性患者計 1,428 人の経過観察結果をもとに、数理モデル（マルコフの過程モデル）を用いたもの。

４．感染経路

・ 経路： HCVは感染している人の血液が他の人の血液内に入ることによって主として感染。

・ 日常生活における感染機会：

血液の輸血等を行った場合

注射針、注射器を感染している人と共用した場合

血液が付着した針を誤って刺した場合

器具を適切な消毒などを行わずにそのまま用いて、入れ墨やピアスをした場合

性行為を行った場合(ただし、まれ)

母子感染(ただし、少ない)

5．検査法

〈一般的な検査の流れ〉

健診(肝機能障害)又は自覚症状等により医療機関受診

↓

HCV抗体検査(血液検査)

↓

HCV抗体陽性

「現在ウイルスに感染している人」(HCVキャリア)
又は
「HCVに感染したが治った人」(HCV感染既往者)

↓

より詳細な検査

- 血液中のHCV抗体の量(HCV抗体価)の測定
- HCVのコア抗原の検出
- 核酸増幅検査(NAT)によるHCV－RNAの検出

6．治療法

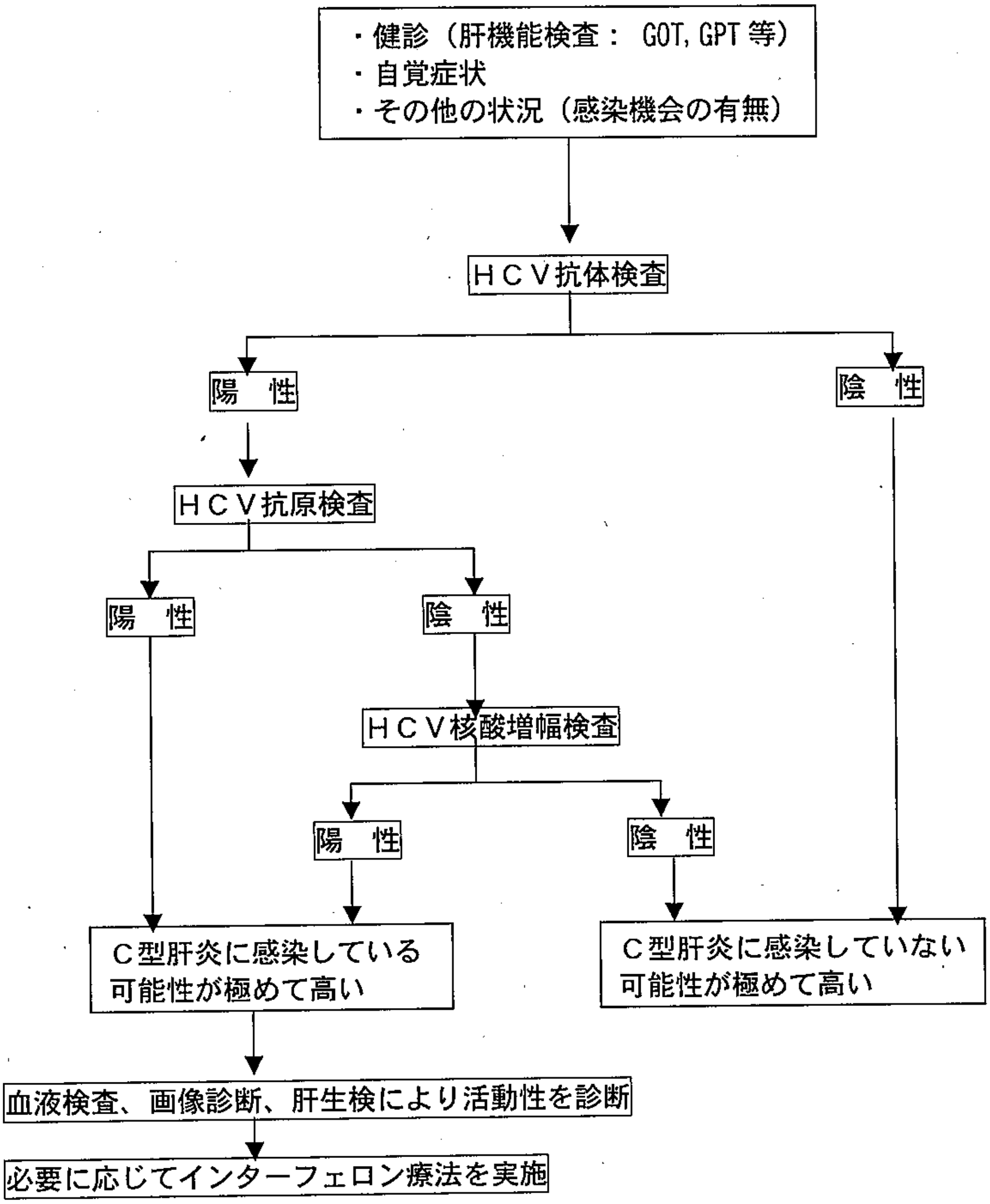
- C型慢性肝炎の治療法には、大きく分けて、以下の2つの方法がある。

(1) 抗ウイルス療法

- 原因であるC型肝炎ウイルスを肝臓から追い出し、完全治癒をめざす治療法。
- 近年、特徴の異なる種類のインターフェロンが開発、実用化。
- インターフェロンとリバビリンの併用療法、リバビリンとペグインターフェロンの併用療法等が行える。

(2) 肝庇護療法

- 肝臓の細胞のひとつひとつを強くして肝炎の活動度を抑える治療法。
- グリチルリチン製剤、ウルソデスオキシコール酸などが用いられている。
- そのほかに瀉血療法といわれるものもある。
- これらの治療法は肝炎ウイルスに対する直接の効果はないが、ほとんどの人について肝炎を沈静化させる効果がある。

※ 肝移植、ラジオ波焼灼療法など
肝がん又は肝硬変に対する治療として行われる。

○　肝機能障害の発見からＣ型肝炎ウイルス検査・治療へのフローチャート